

○ 秋山茂雄先生を悼む (里見信生) Nobuo SATOMI: Obituary of the Late Dr. Shigeo AKIYAMA

秋山先生は、昭和59年11月26日、お亡くなりになりました。享年78才。昭和5年、東京帝国大学理学部植物学科を卒業され、直ちに北海道帝国大学理学部助手として奉職、昭和9年講師、昭和14年助教授、昭和40年教授に昇進された。続いて同年、金沢大学理学部教授に転出されて、昭和46年停年退官された。この間、通算46年の長い間、誠意をもって教育に当られ、熱意をもって研究に努められた。故人の研究は一貫してカヤツリグサ科のスゲ属植物の分類学的研究であった。スゲ属植物は御承知のように、極めて難解な植物群であるにも関わらず、倦むことなく、他のものに気をとられずに槍一筋に進まれた意志の強固さには敬服するばかりである。発表された論文の数は、およそ100篇に及ぶが、その集大成と言うべき「極東亞産スゲ属植物」の大著の刊行は昭和55年で、図版はすべて故人の筆による。不朽の名著として後々に伝えられるであろう。謹んで御冥福をお祈りする。

○ 長田武正・長田喜美子 野草図鑑 1. つる植物の巻(昭和59年3月15日), 2. ゆりの巻(昭和59年3月15日), 3. すすきの巻(昭和59年5月15日), 4. たんぽぽの巻(昭和59年7月15日), 5. すみれの巻(昭和59年9月15日), 6. おきなぐさの巻(昭和59年11月15日), 保育社(〒540大阪市東区上町1-17-13)発行。各巻B6版, 206頁, 1,200円。

第2巻の序文に“植物の名を知ることは、植物について学ぶ最初の仕事でしょうが、植物図鑑をはじめから終わりまでページをめくり、絵合わせで名を決めるというやり方は、労力と時間の大変な浪費であるばかりでなく、当てちがいがたくさん出て、あまり賢明な方法とは申せません。といってやたらに先学の人にとより、教えてもらうというのも、私はおすすめしません。人から教えられた名は、右から左へと忘れやすいものです。しかもそのために、自分で観察する道を知らないようになります。自分の力で観察し、それをもとに書物を用いて調べ出した名は、決して忘れるものではありません。かりに忘れても、調べた過程は、生きた知識、大きな力として残ります。その証拠には、もう一度しらべる時にはすぐ名が出てくるだけでなく、初めて会う他の種類まで、早く名が引き出せるようになっていきます。それでこそ「智は力なり」といえるのでしょう。”と記している。著者は、このシリーズは上記の目的で、日本の野草1400種をすぐ引き出せるよう工風して編集された。本書の勝れた点は原稿を主著者が、写真は共著者がという共同作業に、御二人の息がぴったりとあってなされたことによるものと確信する。しかし、この著の名声を聞いて、ある出版者が、同じ形で、同じ8分冊に分け、巻の名まで同様に出版の予定で広告を出しているというのは、どういう考えであろうか。道義に反した行為と言わざるを得ない。残る2分冊の完成を祈る。

○ 正宗巖敬 日本の自生蘭写真と図 第1集 自己出版, 昭和59年7月25日発行。A4版, 104頁。定価10,000円。

本書に取り上げられた種類はアツモリソウ・ホテイアツモリソウ・コアツモリソウ・キバナアツモリソウ・クマガイソウ・タカネトンボ・ナヨテンマ・ムカゴサイシン・トラキチラン・ヒメノヤガラ・ハチジョウシュスラン・コイチョウラン・チケイラン・キバナコ克蘭・フガクスズムシソウ・オナガエビネ・サイハイラン・イチョウラン・コハ克蘭・クモラン・ナギラン・コラン・ハルカンラン・シュンラン・ヘツカラン・ヤクシマハウサイ・サガミランモドキ・マヤランの28種類である。各種ともに、カラー写真で、その生育状況ならびに花の構造をしめし、詳細な記載を加えてある。著者は、本誌の創刊者であり、本年85才を数えられる。われわれは、この御年齢にもかかわらず、御研究を続けられている先生の御元気を喜ぶものである。なお、本書は第4集まで発行される御予定とのことであるが、益々御健勝で、その御計画が完成されることを御祈り申し上げたい。(里見信生)

表紙写真の説明

高等学校の校章(桜): 桜はわが国の国花として賞せられているが、家紋として、これを使用する家は少なく、徳川時代の大家では、細川・松平(桜井)・仙石の3家であり、また、これらの家臣で主君より拝領したり、支流でこれを使用する家にしても20数家を数えるに過ぎない。これは、まことに不思議な現象といえる。これに反し、明治以後は、旧日本海軍の徽章・階級章に用いられたのをはじめとして、多くの学校では、好んで校章に採用している。その中より、6校のものをえらんだ。(上段左から右に神奈川県立横浜平沼高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、下段左から右に私立学習院高等科、青森県立三沢高等学校、静岡県立森高等学校)